

2050ゼロカーボン実現に向け、地域エネルギー事業会社との協働による取組をスタート

- ◆ 安曇野市は、豊かな自然環境を活かし、**再エネの地産地消**と**地域内経済循環構築**による**2050ゼロカーボンシティ**実現に取り組んでいます。
- ◆ この実現に向けては、意欲ある**地域の事業者**と**相互に連携協力**し、**事業者のノウハウ**を**活用**しながら、多様な取組みを創出していくことが必要です。
- ◆ このたび、**安曇野RE(株)**と**連携協定**を締結し、太陽光やバイオマスなど、地域資源を活用した**再エネ普及**に協力して**取り組むこと**としました。

1 協定の内容

会社名：安曇野RE株式会社（出資者：サンリン(株)、ヒルデブランド(株)、(株)有賀電気工事）

連携事項：① 再生可能エネルギーの導入・供給・利用拡大

② 地域資源の有効活用、脱炭素に寄与する取組みの推進

③ 脱炭素に関する情報交換会、勉強会の実施等

2 具体的な連携事業

地域資源を活用した脱炭素化推進事業

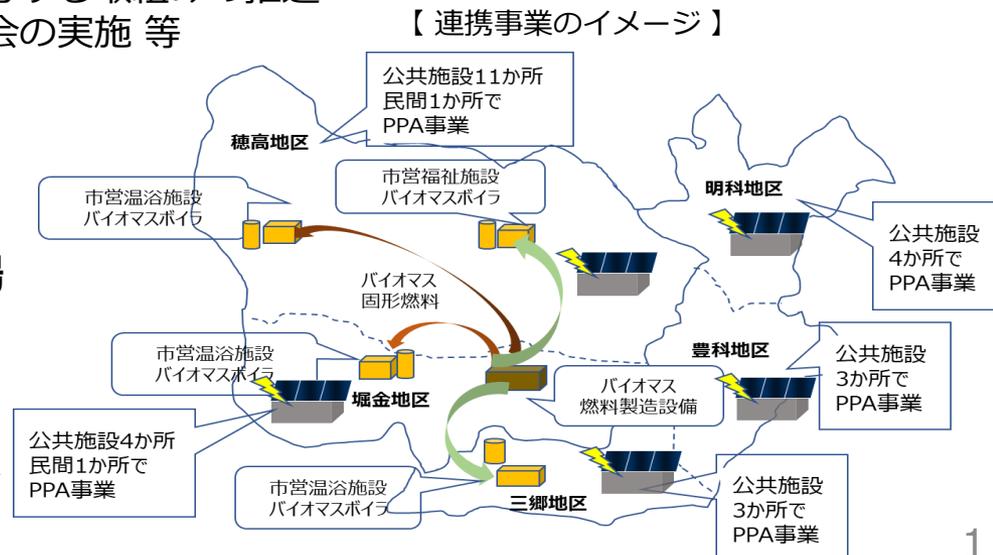
※環境省 地域脱炭素移行・再エネ推進交付金に採択

取組1 公共施設等へのPPA方式による太陽光発電設備等の導入

R6～8年度 **25か所程度**

取組2 きのご廃培地由来のバイオマス資源による温浴施設等への燃料供給

R7～8年度 **4か所程度**

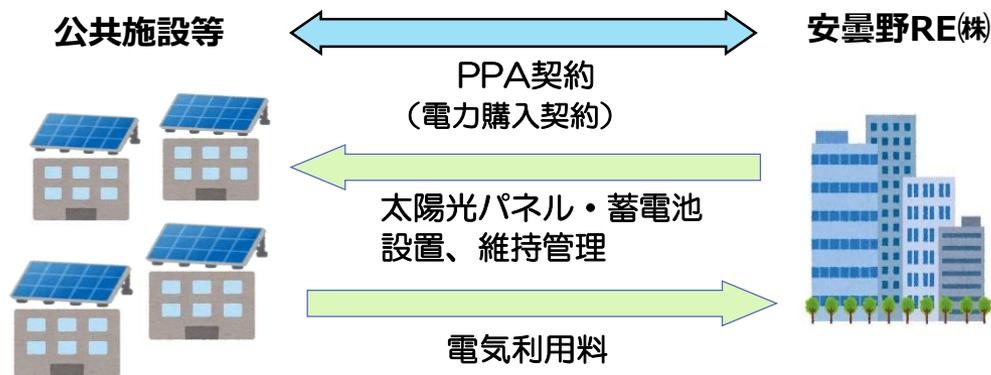


(注) 導入施設数等は、今後変更する場合があります

1 事業の内容

- ◆ 市として初めてPPA方式により、公共施設等へ太陽光発電設備等を導入 ⇒ 初期費用の削減
- ◆ 平時には、再生電力の活用により、二酸化炭素排出量を削減 ⇒ 地球温暖化対策の強化
- ◆ 災害時には、太陽光発電・蓄電池から非常用電力を供給 ⇒ レジリエンス※の向上 ※対応力や回復力のこと
- ◆ 公共施設を皮切りに、民間施設への波及に取り組む

PPAスキーム



○ PPA (Power Purchase Agreement (電力購入契約))
 事業者が自らの負担で公共施設に太陽光発電設備等を設置・維持管理を行い、市は電気使用量に応じてサービス料を支払う仕組み。
 市は初期費用を削減することができ、メンテナンス負担も軽減できる。

2 導入計画 (予定)

➤ R6～8年度 25か所程度

⇒ 屋根の形状等の詳細調査を行い、電気使用量の多い施設を中心に、導入施設を選定

(検討中施設)

ex. 庁舎、学校、こども園、福祉施設、観光・温浴施設など
 公共・民間施設

3 事業効果 (試算)

➤ 再生電力導入量 3,040KW

➤ CO₂削減量 2,181t-CO₂/年

⇒ 導入施設における電気使用量の約20～100%に相当。

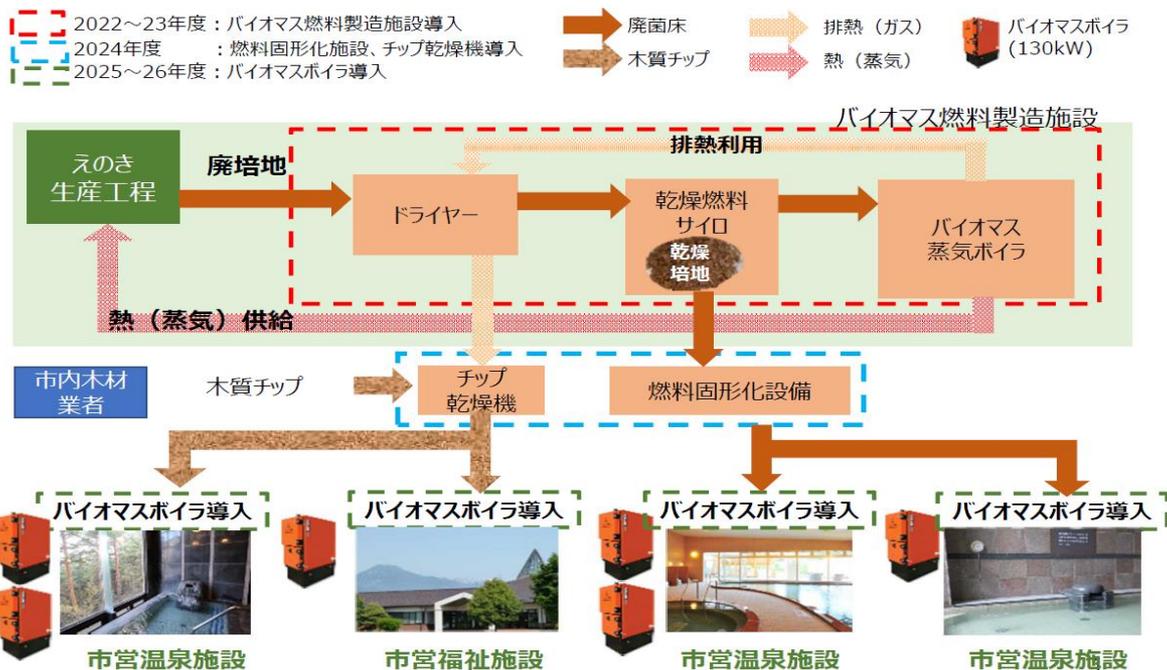
電気料金は現行より削減される見込み。

(注) 事業効果等は導入施設の変更や社会情勢の変化により、今後変更する場合があります

1 事業の内容

- ◆ きのこ廃培地や木質チップを乾燥・固形化し、化石燃料の代替資源となるバイオマス燃料を製造
- ◆ 当該燃料を温浴施設や福祉施設のバイオマスボイラに供給し、重油や灯油の使用量を削減
- ◆ 再エネの地産地消と地域課題の同時解決（廃培地の処理）により、地域脱炭素を実現

バイオマス利用スキーム



2 導入計画（予定）

- R4～6年度
バイオマス燃料製造施設の整備
- R7～8年度
市内温浴施設、福祉施設へのバイオマスボイラ導入
⇒ 4か所程度を選定予定

3 事業効果（試算）

- CO₂削減量 1,572t-CO₂/年
⇒ 導入施設における化石資源使用量の約50%に相当。
燃料代は現行より削減される見込み。

（注）事業効果等は導入施設の変更や社会情勢の変化により、今後変更する場合があります

(参考) 安曇野ゼロカーボンシティ宣言

～2050年脱炭素社会の実現を目指して～ (令和5年3月23日)

安曇野の風土が育んできた**豊かで良好な景観・自然環境を保全**し、**将来の世代に継承**するため、**2050年までにCO₂排出量「実質ゼロ」**の脱炭素社会を目指すことを宣言



市民・事業者・滞在者・行政が
危機意識を共有して

1. 太陽光・水力・バイオマス等によりエネルギーを自給自足化
2. 建物や機器などの省エネルギー化の推進
3. 化石燃料に頼らない交通手段の選択、環境負荷の少ない持続可能な暮らしへの転換
4. 温室効果ガスの吸収と排出の調和がとれた地域づくりのため、自然環境の保全に努める

安曇野ゼロカーボンシティ宣言

～2050年脱炭素社会の実現を目指して～

近年、地球温暖化に起因する異常気象や自然災害が世界各地で頻発しています。

今、地球はかつて経験をしたことがない気候非常事態の危機に直面しているとも言われています。

安曇野市では、長年にわたり、豊かな自然からの恵みを受けた生活が営まれてきました。しかし近年の地球温暖化による気候変動は、人間の生活とともに、生物の多様性にも大きな変化をもたらそうとしています。

地球温暖化が急激に進む今、地球の一員である私たち一人ひとりの意識と行動が、問われています。

よって安曇野市は、市民・事業者・滞在者および行政が、気候変動による危機意識を強く持ち、安曇野の風土が育んできた豊かで良好な景観・自然環境を保全し、将来の世代に継承するため、ここに「安曇野ゼロカーボンシティ」を宣言します。

2050年までにCO₂排出量「実質ゼロ」の脱炭素社会を目指し、その実現に向けた次の取り組みを推進します。

- 1 太陽光・水力・バイオマス（生物資源）などにより、エネルギーを自給自足化します。
- 2 建物や機器などの省エネルギー化を進めます。
- 3 化石燃料に頼らない交通手段を選択し、環境負荷の少ない持続可能な暮らしに転換します。
- 4 温室効果ガスの吸収と排出の調和がとれた地域づくりのため、自然環境の保全に努めます。

令和5（2023）年3月23日

安曇野市長

大田 寛

